

## 29. 専門医師認定の重要性 —医療訴訟事例より学ぶ—

合志清隆

(産業医科大学脳神経外科／高気圧治療部)

[目的] 平成12年7月に本学会による最初の専門医師認定が行われた。この医師認定制度の重要性や問題点を医療訴訟事例から検討することを目的とした。[医療訴訟事例] 取り上げた医療事故の事例は、高気圧酸素(HBO)治療が医療訴訟の争点になっているものである。患者は胸部疾患で外科手術を受けたが、数日後に偶発的な脳塞栓症を併発している。脳塞栓症に対して通常の薬物治療と同時にHBO治療が施行され、経過のなかで患者の神経症状は徐々に改善したが、某日急に心肺停止に陥り死亡に至っている。遺族から起こされた訴状内容でHBO治療に限った争点は、本治療法が呼吸と循環に過大な負担をかけ死亡に至らした、脳梗塞の治療として本治療法は適切ではなかったとするものである。[問われる医療水準] 医療訴訟を検討する際に、当該患者に対する本治療法の適応の妥当性と、一連の医療行為の妥当性を専門的に判断する必要がある。その中で問われることの 하나가、医療者の医療水準である。医療事故が医療過誤に該当するかどうかの判断として、最初に医師の医療水準が問われる。その医療行為が専門的医療である際には、医療水準の基準の一つが学会認定の専門医師になる。[専門医師認定での問題点] 本治療法が救急医療を含めた総合診療を必要とすることから、専門医師認定の基準も診療内容に沿う必要がある。現在の学会認定の基準として臨床研修とその後の救急的な研修項目を含んでいないことは、患者と医療者との診療契約で問題になるだけでなく、医療事故が起こった際には医療過誤と認定される可能性が高い。この点を含めて専門医師認定制度を改正する必要がある。

## 30. 診療報酬点数改正の重要性 —損害賠償請求事例より学ぶ—

合志清隆

(産業医科大学脳神経外科／高気圧治療部)

[目的] 高気圧酸素(HBO)治療の診療報酬点数を改正してゆく必要があるが、これを医療費支払いを求めた民事訴訟事例から検討することを目的とした。[民事訴訟事例] 取り上げた民事訴訟事例は、本治療の医療費請求が損害賠償請求の争点の一つになったものである。患者は意識障害と呼吸抑制を伴う頭部外傷であり、脳神経外科専門施設に転送されている。そこでは薬物治療と同時にHBO治療が行われ、入院治療の間に神経症状は改善している。支払い側である損害賠償保険会社に対して医療機関から医療費支払いの請求がなされたが、支払い側は頭部外傷に対して本治療法の妥当性がないと判断し医療費の支払いを拒否した。そこで、医療機関が医療費の支払いを求めて、支払い側を相手取った民事訴訟が起こされたものである。[問われる保険診療] 社会保険庁から出されているHBO治療の適応疾患には、重症頭部外傷が掲載されており、医療機関はその基準に則って保険診療を行った。この民事訴訟の争点のなかでHBO治療に関する事項は、本治療法が頭部外傷に有効であるかどうかの科学的判断である。臨床論文にて有効性の有無を示すことに過ぎないが、このこと以外に支払い側が医療費支払いを拒否するに至る理由は、診療報酬点数の妥当性である。[診療報酬点数改正の必要性] この治療法の診療報酬点数を学会として常に検討し、その時代に合うように変更することが重要だと思われる。しかしその際に、治療装置とその維持費用などを含めた医療機関の診療収支も考慮する必要がある。